

道徳の時間の可能性を拓く 7つの構想 〈整理版〉

※ 参考：「学習指導要領解説・道徳編」（文部科学省）小学校編P.85～86、中学校編P.90～92を要約。

道徳の時間の学習指導を構想する際には、柔軟な発想をもち、指導過程を弾力的に扱うなどの工夫をして、指導の可能性を拓いていくことが大切になる。
解説書では、小・中学校ともに、次のような学習指導の構想例を示している。（以下は概要）

【拓くポイント】

1 多様な読み物資料を生かした指導

登場人物への共感を中心とした展開に止るだけでなく、資料に対する感動を大事にする展開にしたり、迷いや葛藤を大切にしたりした展開、知見や気づきを得ることを重視した展開、批判的な見方を含めた展開にしたりするなど、資料の特徴を生かした指導の構想をする。

資料を多面的に用いる

資料を拓く

2 体験の生かし方を工夫した指導

体験を想起し実感を深めやすい資料を生かしたり、体験を想起することができるような発問を工夫したり、実物の観察等を生かした活動、コミュニケーションを深める活動、車椅子体験やアイマスク体験などの模擬体験などを取り入れたりするなどの工夫を図る。

方法を多彩に試みる

方法を拓く

3 各教科等と関連をもたせた指導

各教科等と道徳の時間の指導のねらいが同じ方向をもつとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進める工夫が考えられる。その際、各教科等と道徳の時間それぞれの特徴が生かされた関連となるようにする。

各教科等との関連を図る

関連を図る

4 複数時間の関連を図った指導

重点的な主題の学習などでは、一つの主題について複数時間扱いの指導とする構想が考えられる。その場合、複数の資料を連結させる方法、中心的な資料をもとに複数時間かけて深めていく方法など、多様な学習指導過程が考えられる。

時間の設定を柔らかくする

時間を拓く

5 学級経営と関連をもたせた指導

学級の人間関係にかかわる内容や学級の日常生活上の課題とかかわりをもたせるなど、学級経営との関連を図った指導の工夫が考えられる。

日常の指導との関連を図る

関連を図る

6 家庭や地域社会との連携を図った指導

家庭や地域の題材を資料として生かした学習、家庭や地域での話合いや取材を生かした学習、地域の人や保護者の参加を得た学習など、家庭や地域社会との連携を図った指導を工夫する。

人間が相互に連携する

人間を拓く

7 図書館等の施設や校外の場所を生かした指導

道徳の時間での児童の学習に、より広がりをもたせるために、例えば、図書館、博物館などの施設を生かした指導を構想する。そこでは、児童が実物に触れたり、資料を探したりすることなどを含む発展的な学習が促される。また、豊かな自然や伝統の深さを感じられる環境を生かすことで思わぬ効果をもたらすこともある。

空間としての場を拓く

空間を拓く

※ 整理：東京学芸大学「総合的道徳教育プログラム」